

単元名『地域のためにできること』～これからの自分と地域に必要なこと～ (第2学年) 全45時間 単元のねらい

地域の現状や問題点について把握し、それを解決するための具体策を考えることを通して、将来に向けてこれからの自分の生き方や地域について見つめ直すことができるようにする。

単元構想の意図

本単元では、地域の問題に対して探究し、提言書としてまとめ、発信していく学習を行います。つかむ過程では、地域の偉人の生き方から、地域貢献について考えるきっかけにします。追究する過程では、職場体験学習を地域の問題点についての情報収集の場とし、主体的に情報を収集し、提言書としてまとめられるようにします。まとめる過程では、地域にとって必要なことや将来の自分についてまとめ、単元全体を通じて生徒自身の考えが深まるように構成しました。

過程	主な学習活動	探究課題への興味・関心
つかむ (6)	<p>1. 探究課題 (学習対象) と出会い、単元のめあてを把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高山長五郎の生き方を知る。 ○世界遺産の「高山社」へ見学に行く。 ○単元のめあてをつかむ。 <p>単元のめあて 地域の問題点について追及し、提言することを通して、将来に向けた自分の生き方や地域について見つめ直そう。</p>	<p>探究課題への興味・関心</p> <p>身近な地域の偉人を取り上げ、その偉人の生き方について知ることで、生徒が「地域貢献」という働く価値について考えられるきっかけにする。</p> <p>地域とのつながり</p> <p>地域の偉人が実際に生活した場所を見学することで、地域の活性化などを関連させた考えについて、主体的に考えられるようにする。</p>
追究する (42)	<p>2. 単元のめあてに基づき、個人・グループ等の課題を設定し、追究する。</p> <p>①課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市の人口推移予測表等から、今後予想される問題点を話し合う。 ○話し合われた市の問題点を基に、個人で課題を考える。 <p>②情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職場体験の事業所について、インターネットで調べる。 ○市の問題点について各事業所で質問できるようにする。 ○職場体験期間中に職場の方に質問、情報収集する。 <p>③整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各事業所で得た情報を交換し合い、まとめる。 ○市の問題点の解決につながる情報について話し合う。 <p>④まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市に関わる問題点について班ごとに提言書をまとめる。 ○市役所の方から提言書の評価をもらい、<再検討する> 更により提言書とするために見直す。 	<p>問題点の焦点化</p> <p>市の人口推移表(2050年まで)を見ながら、今後起こりうるであろう、問題点について考え、予想する。</p> <p>職場体験で地域情報の収集</p> <p>職場体験を、生徒が働くことの価値について考える機会とするとともに、地域の現状や働いている方の地域に対する考えなどを、収集する場としても活用する。</p> <p>新たな課題を生み出す工夫</p> <p>市役所の方をゲストティチャーとして招き、提言書の評価をもらう。そこで、生徒の「もっとよい提言書にしたい」という意欲を引き出し、深い学びになるよう、次の探究サイクルにつなげられるようにする。</p>
	<p>3. 新たな課題を見だし、継続して追究する。</p> <p>①課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○よりよい提言書にするための、更なる課題を考える。 <p>②情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市や他地域の取組、高齢者の方の意識などについてそれぞれ適切な方法で情報を収集する。 <p>③整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集めた情報を整理・分析し、どのような提言ができるか検討する。 <p>④まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○再び市役所に提言書を提出し、地域に向けて発信する。 	<p>成果の発信</p> <p>新たにまとめた提言書を市役所に届けたり、新聞に考えを載せたりすることで、社会に向けて自分たちの考えを発信する。生徒が学習に対する達成感をもてるようにする。</p> <p>実生活との関連</p> <p>単元の学習を振り返り、地域に向けた思いをまとめることで、学習全般の学びを将来やこれからの自分の生活につなげられるようにする。</p>
まとめる (2)	<p>4. 単元全体の学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今回の単元を振り返り、地域に向けた思いをまとめるとともに、将来の自分の進路や今後の生活の中で伸ばしたり身に付けたりしたい資質を考える。 	

指導例：『地域のためにできること～自分と地域に必要なこと～』
(第2学年 第6時)

指導のポイント

1 本時のめあてをつかむ。

○前時までの内容を基に、めあてを設定する。

T：前回みんなで考えた市の問題点を覚えていますか？

S：「人口減少」「経済の衰退」「少子化」「伝統文化の継承」「高齢者増加」「外国人とのコミュニケーション」などの問題がありました。

T：そうでしたね。ところでみんなは職業体験でどの事業所に行きますか？

S：病院や飲食店、それから工業系に行く人も多いです。

T：これらの事業所の方々はこれらの市の問題点について、どのように捉えているのでしょうか？

S：先生、実際に聞いてみたいです。



めあて 職業体験で地域の問題点について情報収集できるように、事業所の方にどんな質問ができるか考えよう。

前時までの内容を想起させ、めあてを引き出す

○前回までの学習で話し合った市の問題点を確認する。

○市の問題点と事業所の仕事内容を関連させながら、問題点について事業所の方はどのような考えをもっているかについて興味をもたせ、本時のめあてを引き出す。

2 本時の中心となる事業所への質問を考える活動を行う。

○はじめに個人で考える。

S：自分が行く事業所の方には、どんな質問をすることができるだろう。

T：行く事業所によって、異なる質問が考えられるでしょう。

○異なる事業所との班員と質問を考える。

T：班になり、友達同士で意見を交換し合ひましょう。自分が友達の事業所へ行くつもりで考えてあげるとよいですね。

S：事業所によって、質問内容が大きく変わるな。

S：そうか～。友達はそういう視点で考えたのか。自分では思いつかなかったな。



○他の班との意見交流を行う。

T：それでは各班で考えた質問について、他の班に向けて幾つか紹介してください。

S：私たちの班では、「病院に外国の方が来た場合、どのようにコミュニケーションをとっているのか教えてください」や「保育園において、実際に子供が減っている実感はありますか」などの質問ができました。



S：私たちの班では「おそばやに対する質問で、お年寄りの来客は昔に比べて多くなりましたか、またそれによってメニューを工夫していることはありますか」などの質問ができました。

T：この班では「外国人とのコミュニケーション」や「少子化」などの問題点とのつながりで考えています。

○個人で質問を整理して書く。

T：各班の意見を聞き、自分の事業所への質問をもう一度考えてみよう。

S：そうか、自分の事業所ならこの問題点について質問できるかもしれない。

S：質問を参考に質問を考え直してみよう。

個人の課題意識を高める

○生徒自身が行く事業所の仕事内容を踏まえ、市の問題点を追究できるような質問を考えさせる。

○個人で考えさせることで、事業所に応じた生徒個人の課題意識を高める。

多角的に思考できるようにする

○異なる業種で体験する班員の質問事項を考えることで、市の問題点について、より多角的な見方ができるようにする。

つながりを意識し、思考を広げさせる

○他の班と質問を伝え合い、同じ業種の友達の質問や異なる業種の視点を紹介することで、「市の問題」のつながりから思考を広げさせる。

質問の再考を行う

○班員の意見や、他班の意見を参考に質問を再考する。

○自分の体験する事業所において、追究できる問題点について改めて考え直し、生徒個人の課題に対する意識を更に高める。

3 本時の学習を振り返り、次時につなげる。

○ワークシートに本時の感想と職業体験に向けて意識したいことをまとめる。

S：自分では思いもよらなかった質問を友達の意見を参考に考えられた。職業体験に行ったらぜひ質問してみたい。

指導例：『地域のためにできること～自分と地域に必要なこと～』
(第2学年 第26時)

指導のポイント

1 本時のめあてをつかむ。

○前時までの内容を基に、めあてを設定する。

T1：前回みんながまとめた提案書を市役所に提出してきました。今日は、担当の方(T2)がわざわざ市役所から来てくれます。

T2：こんにちは。みなさんの提言書を見させていただきました。すばらしかったのですが、今日は次の二つのポイントに意識してもらって再度検討してもらいたいです。

【ポイント：①必要性 ②実現性】



ポイントの提示

めあて

市役所の方からもらったポイントを生かし、提言書をよりよくしよう。

S：もっとよい提言書を考えるぞ。

S：自分たちの提言を見直そう。

2 班ごとに提言書を検討し、その内容を発表する。

○「必要性」「実現性」のポイントを基に、班で検討する。

T1：市役所の方に教えていただいた提言書のポイントから、自分たちの提言には「必要性」があるのか、また、「実現性」はあるのか。もう一度班で検討してみよう。

S：自分たちの提言は、ちょっと実現性が低いかも。もう少し調べてみると分からないな。

S：私たちの提言は本当に必要性があるのかな。市にとって必要かどうか考えてみないとけないな。

T2：確かにそうだったね。この提言はすでに市で実践されているかもしれないですね。

S：他の市の取組なども参考にしてみたいね。



再検討の話し合い

○各班で検討した内容を全体で伝え合う。

T1：それでは各班で検討したことを、発表してください。

S：私たちの班は、藤岡市の特産物をPRしようという提言をしました。ですが、班でその必要性を検討していくうちに、実際の特産物を調べてみようということになりました。

T1：そうですね。特産物を調べることで、PRの内容なども変わってくるかもしれませんね。

S：私たちの班では、外国人の方と触れ合う機会をもつイベントを提言しましたが、実現性を検討していく中で、実際に外国人の方がどのくらいいるのかということになり、調べることになりました。



検討内容の発表

3 本時のまとめをし、学習を振り返る。

○本時の活動で気付いたことから、次回に向けた自分(個人)の課題をまとめる。

T2：みなさんの新しい提言を楽しみにしています。ぜひ、また見せてください。期待しています。



全体で振り返り

ゲストティーチャーからの助言を基に再び課題意識を引き出す

○提言書の内容について、足りなかったポイントを、直接市役所の方から教えてもらうことで、よりよい提言書にしようという生徒の意欲につなげる。

○ゲストティーチャーとは事前によく話し合いと授業のねらいを共有し、生徒が主体的に活動できるようにする。

ポイントを基に、もう一度提言を見直せるようにする

○外部の方の意見や評価を生かし、今までと違う見方や視点を意識させ、次の課題を見付けさせるようにする。

○検討の内容に合った思考ツールを活用することで効果的な話し合いにする。

今後の活動に見通しをもたせる

○班での発表を通し、自分たちの新たな課題を整理することで、今後の活動に見通しがもてるようにする。

○他の班の課題を聞くことで、違った視点や見方に気付かせる。

新たな課題追究につながる振り返りをさせる

○次回の授業に向け、個人で課題を書かせるようにする。自分たちの足りないところを考え、新たな課題追究に向けて見通しをもてるようにする。

総合的な学習の時間学習指導案

平成30年4月～平成31年3月 第2学年 指導者 瀧本 考志

I 単元名 「地域のためにできること」～これからの自分と地域に必要なこと～

II 本単元の学習

本単元は、中学生が地域の事業所で実際に働き、そこで働く方々と関わった経験を生かし、地域の問題点について追究し、提言する。それらの活動を通し、生徒が将来に向けて自分の生き方や地域について見つめ直す学習である。

III 目 標

地域の現状や問題点について把握し、それを解決するための具体策を考えることを通して、将来に向けてこれからの自分の生き方や地域について見つめ直すことができるようにする。

(1) 知識・技能

- ・地域での課題などをつかみ、自分なりに解釈したり探究したりするための知識や技能を習得する。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・地域の課題に対して、自分はどのように向き合っていくかという視点を基に、課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。

(3) 学びに向かう力・人間性等

- ・地域の可能性などについて地域の人々や探究を共にする仲間との交流を通して学び深め、提言としてまとめることができる。

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開 (6/45)

- 1 ねらい 前時で確認した未来に予想される藤岡市の問題点について、職業体験でお世話になる事業所の方の考えが聞ける質問を、班員同士でそれぞれ考えさせることで、地域に対する課題意識をもたせる。

2 展開

学習活動 (分)

○：留意点

点線囲：評価

☆：振り返りの子供の意識

1 本時のめあてをつかむ (10分)

○前時で考えた藤岡市の問題点を問い掛けたり、まとめたものを掲示したりする。

○前時の内容を振り返るように、生徒のワークシートを紹介する。

○本時では、藤岡市の問題についての質問を考えることで、地域に対する課題意識をより高めていきたいことを説明する。

【前時までに確認した予測される藤岡市の問題点】

- ・買い物に行けない老人 ・一人暮らしの老人 (孤独死)
- ・介護の問題 ・児童・生徒数の減少 ・労働問題 (人手不足) ・学校、地域がなくなってしまう。

めあて 職業体験で地域の問題点について情報収集できるように、事業所の方にどのような質問ができるか考えよう。

2 本時の中心となる、事業所への質問を考える活動を行う。(35分)

(個人で考える)

○ワークシートに自分が体験する事業所への質問を考えさせる。

○質問が考えられていない生徒には、クラスで確認した藤岡市の問題点との結び付きを意識させる。

○前時で調べた事業所の特徴から質問を考えさせる。

(班で考える)

○ブレインライティングを使い、班員で意見を交換させる。

○自分の事業所の質問だけを考えさせるのではなく、班員の事業所についても考えることで、見方や考え方を広げさせる。

(他の班と意見交流を行う)

○各班で考えた質問について、各自一番してみたい質問を選び、ワークシートに書き入れさせる。

○各班で発表し共有させる。

(個人で再び質問を考える)

○個人で質問を整理し、もう一度質問を考えさせる。

○各班の質問を聞き、新たに思い付いた質問があったら書き加えるように助言する。

4 本時のまとめをする。(5分)

○本時の感想をまとめさせる。

藤岡の問題点を踏まえた感想や質問を考えている。

〈ワークシート (2)〉

☆友達の意見を参考に質問を考えることができた。

☆友達の事業の質問も考えたので、広く藤岡市の問題点について考えることができた。

V 本時の展開 (26/45)

1 ねらい 市役所の方からもらった提言書のポイントやアドバイスを生かし、よりよい提言書にするため、班で再検討することを通し、更なる課題を見付けられるようにする。

2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<p>1 本時のめあてをつかむ (10分)</p> <p>○市役所の方の紹介をする。</p> <p>○市役所の方から「提言書のポイント」を伝えてもらい、班で検討することを説明する。</p> <p>○「提言」の文言も場合によって後で再検討してもよいことにする。</p> <p>○状況調査や調べが根拠となり、よい提言書となることを押さえる。</p> <p>○よい提言の内容を書いている班を紹介する。</p> <p>○めあてを提示し、本時の学習内容を確認する。</p>			<p>【提言書のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none">・必要性の問題 (本当に必要か。なぜ必要なのか。すでにないか。)・実現性の問題 (中学生の視点)
<p>めあて 市役所の方からもらったポイントを生かし、提言書をよりよくしよう。</p>			
<p>2 班ごとに提言書を検討し、その内容を発表する。(20分)</p> <p>○思考ツール「座標軸シート」を用い、提言書について再検討させる。</p> <p>○「提言書のポイント」を基に、自分たちの提言書に足りないことについて考えさせるようにする。</p> <p>○今後調べなくてはならないことなどを班で検討し、ホワイトボードにまとめさせる。</p> <p>○市役所の方にも各班に助言してもらえるようにする。</p> <p>各班で検討した内容を全体で伝え合う。(15分)</p> <p>○各班で出た考えなどを発表させ、全体で共有させる。</p> <p>○なぜその考えになったのかなど、班での話合いの様子も発表させる。</p>			
<p>自分たちで考えた藤岡市への提言書について、提言書のポイントを基に更なる課題を見付け、よりよい提言にしようとしている。 〈ワークシート (2)〉</p>			
<p>3 本時のまとめをする。(5分)</p> <p>○これからの自分の課題が明らかになるように書かせる。</p> <p>○感想等だけではなく、具体的に調べたいことを書かせる。</p> <p>☆根拠が足りない。よし、もう一度事業所の人に聞いてこなくては。</p> <p>☆説得力をもたせるには、具体的に調査をする必要がありそうだ。</p>			

指導計画 総合的な学習の時間 第2学年

単元名「地域のためにできること」～これからの自分と地域に必要なこと～（全50時間計画）

目標	地域の現状や問題点について把握し、それを解決するための具体策を考えることを通して、将来に向けてこれからの自分の生き方や地域について見つめ直すことができるようにする。			
評価規準	<p>(1) 知識・技能 地域での課題などをつかみ、自分なりに解釈したり探究したりするための知識や技能を習得する。</p> <p>(2) 思考力・判断力・表現力 地域の課題に対して、自分はどのように向き合っていくかという視点を基に、課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。</p> <p>(3) 学びに向かう力・人間性等 地域の可能性などについて地域の人々や探究を共にする仲間との交流を通して、学び深め、提言としてまとめることができる。</p>			
過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り（意識） ◇評価項目 〈方法・観点〉	
つかむ	1	<p>1. 探究課題（学習対象）と出会い、単元のめあてを把握する。</p> <p>① 探究課題と出会う。</p> <p>○「高山長五郎の生涯」を読み、長五郎の生き方から、働くことについて興味をもたせる。</p> <p>高山長五郎は何のために働いていたのだろうか？自分なりに考えてみよう。</p>	<p>☆地元こんな立派な人がいたのか。長五郎は地域のためにどのような貢献をしたのかな。</p> <p>☆長五郎が苦難に負けなかったのはなぜだろう。</p> <p>☆長五郎はお金のためだけでなく、地域のために働いていたのはなぜだろう。</p>	<p>◇高山長五郎が何のために働いていたのかについて考えが書けている。</p> <p>〈ワークシート(1)〉</p>
	1	<p>○「高山社（高山長五郎が全国に養蚕を普及させた跡地）」に行き、解説員から長五郎の生き方について説明を聞くことで、地域に貢献について考えを深めさせる。</p> <p>高山社へ行き、直接見聞きすることで、働くことについてより深く考えるきっかけにしよう。</p>	<p>☆こんな山奥に全国から人々が集まっていたのは不思議だな。</p> <p>☆長五郎が女性や、貧しい人にも養蚕を教えていた理由をもっと知りたいな。</p> <p>☆自分のためだけでなく地域のことをもっと考えていかないといけないな。</p>	<p>◇自分のこれからの生き方についても考えようとする意識を高めている。</p> <p>〈ワークシート(1)〉</p>
	1	<p>② 単元のめあてを把握する。</p> <p>○ 地域と人を大切にしたい高山長五郎の生き方を基に、地域に貢献することの大切さを考え、単元全体の課題をつかませる。</p> <p>高山長五郎が大切にしたいことは何かを考え、自分の考えと比較してみよう。</p> <p>単元のめあて</p> <p>地域の問題点について追究し、提言することを通して、将来に向けた自分の生き方や地域について見つめ直そう。</p>	<p>☆よく考えれば、地域がなければ自分も生活ができない。</p> <p>☆人々のために働くことが自分のためになるな。</p> <p>☆自分の幸せと、地域の発展を考えることは、似ているのかな。</p>	<p>◇自分のこれからの生き方のみならず、地域など、より広い視点に立って考えていこうとする意識をもっている。</p> <p>〈ワークシート(1)〉</p>
1	<p>③ 追究の見通しをもつ。</p> <p>○ 課題を解決するために藤岡の人口や、職業、働いている人の意識などについて調べたり、地域の問題を解決するために必要なことを、考えたりすることへの見通しをもつ。</p> <p>藤岡の人口や職業、そこで働く人の意識などを調べたり、考えたりすることを話し合おう。</p>	<p>☆藤岡の人口は今後どうなっていくのだろうか。</p> <p>☆そういえば、1年生の時に職業人から話を聞く会では、地域のために多くの人々が働いていたな。</p> <p>☆職業体験の時に、事業所の人といろいろ話してみたいな。</p> <p>☆今藤岡で働いている人は、どんなことを考えて働いているのだろうか。</p> <p>☆地域にはどのような事業所があるのだろうか。</p>	<p>◇地域の事業所や、そこで働く人に興味をもち、これから課題を追究していこうという気持ちを高めている。</p> <p>〈ワークシート(1)〉</p>	

追究する	2	<p>2.単元のめあてに基づき個人・グループ等の課題を設定し、追究する。</p> <p>①課題設定</p> <p>○藤岡の人口推移予測表を見て、これからの藤岡市の問題点を考える。</p> <p>問題点</p> <p>「高齢化」「労働力」「少子化」「エネルギー」「経済的負担」など</p> <p>藤岡の人口推移予測表を見て、これからの藤岡市の問題点について考え、課題意識をもって職業体験に行けるようにしましょう。</p>	<p>☆将来、藤岡の人口がここまで減ってしまうなんて考えていなかった。</p> <p>☆自分たちも地域のビジョンをもっていないといけないと思う。</p> <p>☆藤岡の発展はとても大切なことだ。今後は僕たちが考えていけないといけない。</p> <p>☆少子化といっても、どのような対策をすればよいのかな。</p>	<p>◇藤岡市の問題点について積極的に考え、職業体験に行き、調べたいという意欲をもっている。</p> <p>〈ワークシート(3)〉</p>
	1	<p>○体験する事業所の仕事内容について、インターネットで調べ、藤岡市の問題点を事業所で情報収集できるようにする。</p> <p>体験する事業所について、インターネットで調べ、藤岡市の問題点について質問できるようにしよう。</p>	<p>☆自分の行く事業所はこんなことをしていたのか。この事業所の内容なら、様々な問題点について聞けそうだな。</p> <p>☆職業体験に行くことがとても楽しみになってきたな。</p>	<p>◇自分の行く事業所について調べ、藤岡市の問題点とも関連させて調べようとしている。</p> <p>〈ワークシート(3)〉</p>
	1	<p>○未来に予想される藤岡市の問題点について、事業所の方の考えが聞けるよう、質問を班員同士で考えさせる。</p> <p>職業体験で藤岡の問題点について情報収集できるように、事業所の方にどんな質問ができるか考えよう。</p>	<p>☆自分の行く事業所で実際に働く人はどのように藤岡市の問題点について考えているのだろう。</p> <p>☆友達の意見も取り入れながら、事業所の人に質問をしよう。</p> <p>☆問題点を解決するために考えた質問に、事業所の方がどのように答えてくれるか楽しみだ。</p>	<p>◇藤岡市の問題点と事業所の仕事内容を関連させて質問を考えている。</p> <p>〈ワークシート(3)〉</p>
	15	<p>②情報の収集</p> <p>○職業体験を行い、企業の仕事や取組、働いている人の意識等を調べさせる。</p> <p>自分で実際に働いてみることで、仕事の内容や働いている方の意識、藤岡市の問題点について調べよう。</p>	<p>☆実際に質問をしてみると、現場の人は藤岡の問題点についてもいろいろなことを考えていることが分かった。</p> <p>☆自分が思っていた以上に問題は深刻化していたなあ。自分たちの将来のためにも考えなくては。</p>	<p>◇藤岡市の問題点と事業所の仕事内容を関連させて質問を考えている。</p> <p>〈ワークシート(3)〉</p>
	1	<p>③整理・分析</p> <p>○職業体験での経験を基に、働くことへの価値観に変化があったかや、全体の感想をまとめ、働くことの課題を考えさせる。</p> <p>職業体験での調査を基に、働く価値について考え、気が付いた働くことの課題について考えよう。</p>	<p>☆初めに考えた、働く上で大切にしたい価値観と変化した。やはり自分の得意なものを生かせる仕事がしたいな。</p> <p>☆会社やお金のためだけでなく、社会や地域のために働いている人が多くいたな。</p>	<p>◇地域の問題点と関連させて、自分なりの仕事への思いをまとめている。</p> <p>〈ワークシート(3)〉</p>
	1	<p>○藤岡市に関わる問題点について、職業体験での調査を基に、班で情報交換し自分が提言したい問題について考えさせる。</p> <p>職業体験での調査を基に、藤岡市の問題点について意見交換しよう。</p>	<p>☆自分が思っていたよりも、事業所の方は問題点について深く考えていたな。自分はどの問題点について提言しようかな。</p>	<p>◇自分が追究していきたい問題点について、考えを深めている。</p> <p>〈ワークシート・観察(2)〉</p>
	2	<p>④まとめ・表現</p> <p>○藤岡市に関わる問題点について、班ごとに提言書をまとめさせる。</p> <p>藤岡市の問題点について班で話し合い、問題解決に向けた提言書をまとめよう。</p>	<p>☆どんな提言にしようかな。藤岡市が元気になるような提言がいいな。</p> <p>☆具体的な手法が思い付かないな。提言を実現させるにはどうしたらよいのだろう。</p>	<p>◇問題点に対する提言をまとめ、具体的な方法を考えている。</p> <p>〈ワークシート・観察(2)〉</p>

追究する	2	3.新たな課題を見だし、継続して追究する。 ①課題設定 ○市役所の方をお呼びし、提言書についてのポイントを教えてもらうことで、更によりよい提言書となるように課題を明らかにする。 市役所の方から教えてもらったポイントを生かし、よりよい提言書になるようにしよう。	☆根拠となるようなデータがなければ必要性が感じてもらえないな。 ☆中学生としての視点をもつことが、大切なのか。それなら自分でもできそうだな。 ☆次回は市の人口についてもう一度年代別に調べてみよう。 ☆市内の外国の方を調べよう。	◇自分たちで考えた藤岡市への提言書について、提言書のポイントに基づき更なる課題を見付け、よりよい提言にしようとしている。 〈ワークシート(2)〉
	6	②情報の収集 ○他の人の意見を聞いたり、インタビューをしたり、よりよい提言書に向けて情報を収集させる。 よりよい提言書に向けて更に情報を集めよう。	☆中学生としての視点をもつことで、実現できそうな気がしてきた。 ☆インタビューすることで、いろいろ見えてくることもあるな。 ☆提言の文言を変えないと伝わらないな。	◇よりよい提言書作成に向け、必要な情報を集めている。 〈ワークシート・観察(2)〉
	6	③整理・分析 ○集めてきた情報をもちより、どのような手法案を提言できるか分析させる。 新提言書に向けて、手法案を検討しよう。	☆前回の手法案よりも具体的で実現性も増している気がする。 ☆調べたことが根拠になっているので、かなり信ぴょう性があると思うな。	◇提言書のポイントを参考に、よりよい手法案を考えようとしている。 〈ワークシート(3)〉
	1	④まとめ・表現 ○調べたり考えたりしたことを根拠に、提言書を作成させる。 市長に向けて再び提言書を作成しよう。	☆今度は市の人にも納得してもらえるとよいな。 ☆前回よりも納得のいく提言書ができたぞ。	◇提言書のポイントを生かしながら、提言書の言葉などを吟味している。 〈提言書(3)〉
	1	○どのようにこの提言を地域に発信するか検討する。 自分たちの提言を、地域に発信しよう。	☆自分たちの提言が世の中に発信されるのは少しドキドキするな。 ☆少しでも誰かの心を動かさせればよいな。	◇より効果的な発信方法を考えている。 〈ワークシート・観察(2)〉
まとめる	2	4.単元全体の学習を振り返る。 ○今回の授業を振り返り、将来の自分の進路や、今後の伸ばしたい資質や、地域に向けた思いなどをまとめさせる。 今までの学習を振り返り、これからの自分、そして地域に対する思いをまとめてみよう。	☆当たり前に住んでいる町だけど、考えてみるともっと自分たちは関わっていけるのだと感じた。 ☆これからはより深く調べたり関わったりしながら、自分の可能性や地域のことについても考えていきたい。 ☆かけがえのない地域を大切に、自分の進路に向けて努力したい。	◇今までの授業を振り返り、これからの自分や、地域について自分の考えをまとめている。 〈ワークシート(2)〉